

CLIPPING REPORT

PUBLICATION: 日経産業新聞

CIRCULATION: 167,144

DATE ISSUED: 2007年12月27日

医師や看護師、薬剤師ら様々な職種の医療従事者が知恵を出し合って治療を進める「チーム医療」。日本でも米国並みにこの取り組みを普及させようと、製薬二社が勉強会など支援活動に力を入れている。取り扱いが難しい「抗がん剤」の処方増に向けて、地道な取り組みが続いている。

「そのやり方で患者さんは本当に満足するの」。明け方近くの会議室。医師と看護師、薬剤師が数人ずつに分かれ、徹夜で患者の治療方針を巡る議論を交わす。

これは「チーム医療」を学ぶ一泊二日の勉強会恒例の一コマだ。「四十五歳女性。左乳がん手術

チーム医療、がんで先行

製薬2社、勉強会など支援活動



医師と看護師、薬剤師が知恵を出し合って治療方針を決める（都内の勉強会）

抗がん剤使用適正に

から四年後に肝臓に腫瘍（しゅりゅう）。中学二年生の娘と小学五年生の息子がいる」など具体的な患者像を設定。各人が知恵を出し合って治療方針を決め、最後は患者に

から四年後に肝臓に腫瘍 伝える場面をロールプレ（しゅりゅう）。中学二年生の娘と小学五年生の息子がいる」など具体的な患者像を設定。各人が知恵を出し合って治療方針を決め、最後は患者に

考え方は十分広まった。今はその実践方法を体たたくき込んでもらっている段階だ」と話す。

この勉強会「みんな学ぼうチームオンコロジ」は二〇〇六年一月に

よくなった。チーム医療が盛んな米テキサス大MDアンダーソンがんセンターの上野直人・腫瘍内科准教授と、聖路加国際病院の中村清吾・乳腺外科部長が組み、二〇〇六年から日本のセミナーや米国での二カ月間の研修を始めた。

佐治医長はこの米国研修の第一期生。「チームオンコロジ」は、佐治医長ら同制度の卒業生が中心となってチーム医療のすそ野を広げようという取り組みだ。

この勉強会などを支援しているのは中外製薬とスイス系ノバルティスファーマ（東京・港）の二社。ともに乳がん用の抗がん剤を扱っており、中

がん分野は生活習慣病など他分野に比べて薬が十分な治療効果を上げておらず、国内外の製薬企業が新薬開発を競っている。がん分野の売上高シェアは、中外が約三割、ノバルティスは二割強で、今後がん分野の比重は高まる見通しだ。

チーム医療には医師以外の職種がからみ、医師中心の医学会は研修プログラムなどに十分取り組めていない。製薬二社によるチーム医療普及の取り組みは助成額こそ年間一億円程度だが、医療の質を高め、医師と患者、製薬企業の三者に利益をもたらす戦略として注目されそうだ。

始まり、今夏で四回目。いずれも「乳がん」をテーマとしてきた。

佐治医長は「乳がんは手術だけでなく、抗がん剤や放射線など治療の選択肢が多い。医療従事者が知恵を出しあうチーム医療の考え方がなじみやすい」と解説する。

チーム医療は〇〇年ごろから米国で注目される

がん剤を扱っており、中

（川俊成）